



## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。  
さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与すべく絶えず検査領域の  
拡大に努めておりますが、このたび、下記項目の受託を開始することになりました。  
取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

### 記

- 受託開始日 2019年 2月 1日(金) 受託分より
- 新規受託項目 HTLV-1抗体[ラインプロット法]
- 検査要項

CODE	検査項目	検体 必要量	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
7503	HTLV-1抗体 [ラインプロット法]	血清 0.2mL	A1-1 ↓ G1-2  冷蔵	ラインプロット法 [LIA法]	判定 (-)	4~6日	425点 免疫	※  *4

検査場所: エスアールエル(略号: \*4)

※本項目はInformation No.2018-054で受託中止のご案内をいたしましたHTLV-1抗体(ATLA)[ウエスタンプロット法]の代替項目となります。受託の準備が整いましたのでご案内させていただきます。

### ▼ 臨床的意義

ヒトT細胞白血病ウイルス I 型(HTLV-I)は、成人T細胞白血病(ATL)やHTLV-1関連脊髄症(HAM)等の起因ウイルスであり、HTLVキャリアの大部分は抗HTLV-1抗体を保有しています。HTLV-1抗体検査は、ATLやHAMの診断補助や、母子感染などの感染防止を目的としたキャリア検出に重要な役割を果たしています。

HTLV-1抗体検査は、一次検査としてPA法やCLEIA法が用いられ、陽性例においては、ウエスタンブロット法〔WB法〕による確認検査が行われていましたが、WB法においては 0~20%が「判定保留」となり、ウイルスは存在するが産生抗体力価が低い状況では、抗体検出系であるWB法のみでの確定診断は困難であることが問題となっています。

本項目は、判定保留率を低下させる目的で開発されたラインブロット法で、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体を検出する定性検査です。WB法と同様、一次検査での陽性例に対する確認検査として、新たに保険適用となりました。

従来のWB法に比べ、判定保留率が低減することが期待されます。

### ▼ 判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる(≧±)	gag p 19 か gag p 24 か env gp 46 のいずれかが認められる	
	env gp 21 が認められる	保留
ラインが2本認められる(≧±)	env gp 21 が認められない	
	env gp 21 が認められる	陽性
ラインが3本認められる(≧±)		

### ▼ 検査方法参考文献

Zrein M, et Al :Clin Diagn Immunol 5(1) :45. 1998